

【5-1-f】

中国東北地方の農村住居における空間構成の変容に関する研究 —農村住居の増築・改築とカンの変化—

A study on the transformation of space composition of traditional farm houses in northeast China

棒田 恵*3 西村 伸也*1 林 文潔*2 門岩 由布子*4
Satoshi Boda*3 Shin-ya Nishimura*1 Lin Wenjie*2 Yuko Kadoiwa*4

中国東北地方の農村住居を対象に増築・改築による住要求の変容を明らかにする。中国東北地方に現在も生活の中核として利用されているカンとカマドが変容している。増築・改築によるカンの取り壊し、室の分割、カマドの移動が、1) 接客空間の就寝空間と炊事空間からの分離、2) 生活空間の使い分けとして、季節による就寝場所の使い分け、客による接客場所の使い分け、3) 二世帯同居における生活空間の分離の住要求により行われていることを明らかにした。

Keywords northeast China kang traditional farm house extension reconstruction
中国東北地方 カン (炕) 伝統的農村住居 増築 改築

1. 研究の背景と目的 近年、中国の都市部ではめざましい経済発展と共に、大規模な住宅開発が進められ、農村でも新築住居が建設されており、多様な住居が現れてきている。その一方で、中国東北地方の農村住居では、増築・改築を行いつつも寒冷地方の伝統的暖房方式である「カン (炕: kang)」を残し、現在でも「カン」を生活の中核とする住居が残っている。本研究は、「カン」のある農村住居について調査を行い、増築・改築に着目し、空間構成と住まい方への影響を分析し、農村住居の住要求を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要 調査は2006年7月1日～10日のうちの5日間にわたり、遼寧省大連市旅順口区で12軒の農村住居を対象として行った。実測調査による住居平面・家具配置の採取、および住まい方についてのヒアリング調査を行った。また、過去に行われた中国東北地方 (大連市金州区、凌水鎮、旅順口区、普蘭店市、哈爾濱市) の農村住居のデータを比較対象としている。

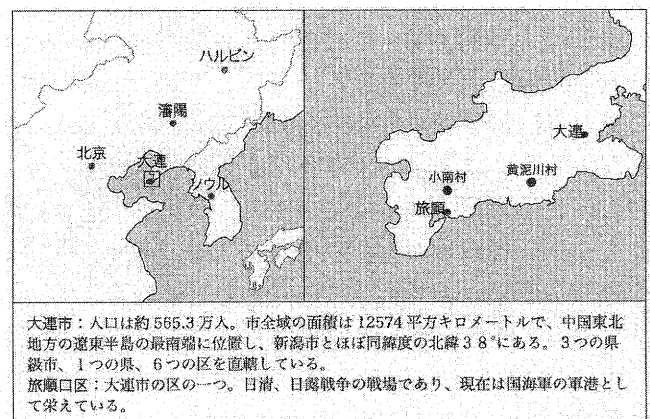


fig.1 調査対象地域

調査対象住居	調査時期	住戸数	記号
旅順口区・農村住居	2006年7月	12	Lu0601-Lu0612

比較対象住居	調査時期	住戸数	記号
金州区・農村住居	1993年9月、1994年12月	23	K9301-K0006
凌水鎮・農村住居	1993年9月、1994年12月、2000年12月	27	Li9307-Li9433
哈爾濱・農村住居	2001年8月	25	H0101-H0125
旅順口区・農村住居	2000年12月、2005年9月	5	Lu0007-Lu0513
普蘭店市・農村住居	2005年9月	11	P0501-P0511

fig.2 調査対象住居と比較対象住居

*1 新潟大学工学部 教授・工博 Prof., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

*2 新潟大学大学院 博士後期課程・工博 Graduate school of Eng., Niigata University. Dr. Eng.

*3 新潟大学大学院 博士後期課程・工修 Graduate school of Eng., Niigata University. M. Eng.

*4 新潟大学大学院 博士前期課程 Graduate school of Eng., Niigata University.

住居記号	建設年	居住者数	住居面積 (㎡)	増築箇所	改築箇所1	改築箇所2	改築箇所3	改築箇所4	改築箇所5	改築箇所6	改築箇所7		
Lu0608	1760	5	62.6	東 3-4 増築									
Lu0610	1886	3	69.2		西 2 改築	炕→炕道							
K9305	1890	2	47.2		中央改築	2分割							
Lu9310	1890	4	55.5	東 2 増築	中央改築	カマド取り壊し	西 1 改築	炕→炕道					
Lu9401	1924	1	48.9		西 2 改築	炕取り壊し							
K9409	1925	3	36.5		中央改築	3分割	西 1 改築	2分割、炕取り壊し					
Lu0611	1930	6	85.3	西 3 増築	中央改築	カマド取り壊し、壁変更	西 1 改築	炕取り壊し	東 1 改築	2分割、カマドの設置、壁変更	西 2 改築	壁変更	
Lu0602	1936	7	77.3		東 2 改築	炕→炕道							
Lu0604	1936	5	125.3	尾房増築	中央改築	2分割、カマド取り壊し	西 1 改築	炕の新築、壁変更	西 2 改築	炕→炕道、壁変更		東 1 改築	炕取り壊し、カマドの設置
Lu0605	1936	4	74.5		東 1 改築	炕取り壊し	西 2 改築	炕→炕道					
Lu0609	1936	7	84.3	中央張り出し部分増築	中央改築	2分割	西 2 改築	炕→炕道	東 2 改築	炕→煙突			
Lu0603	1940	3	38.0		東 2 改築	炕→炕道							
Lu0607	1960	5	65.3		西 2 改築	炕→煙突							
Lu0612	1971	2	80.3	東 3 増築	東 2 改築	炕→煙突							
Lu9422	1975	3	63.9		東 2 改築	炕→炕道							
H0120	1976	4	56.0		西 1 改築	炕取り壊し							
Lu0513	1978	3	124.8	正房南東側増築									
Lu9404	1980	1	41.0	北東増築	西 1 改築	炕→炕道							
K9405	1982	3	38.0		中央改築	2分割							
Lu9433	1982	5	59.6		中央改築	-							
K9408	1984	3	56.5		中央改築	-							
K9411	1987	3	40.2		中央改築	2分割							
H0110	1990	5	80.4		西 1 改築	壁取り壊し	西 2 改築	壁取り壊し					
Lu9423	1993	5	66.3		西 1 改築	炕設置							
H0117	1998	4	72.6		東 1 改築	炕→ボイラー室							

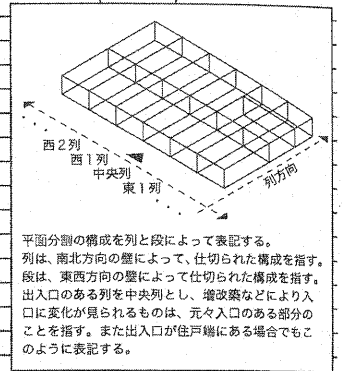


fig.3 増築・改築場所と内容

3. 増築・改築の建設年

ガスやラジエータ等の設備やソファやベット等の家具の変化、各世代の住まい方の多様化といった近年の生活様式の変化に伴い、建設年の古い住居では増築・改築が行われている。これまでの調査より、増築・改築の住居は103軒中25軒確認でき、そのうち17軒は1978年以前の住居である。また、増築は25軒中8軒であり、1978年以前のもが7軒であり、改築された住居は、25軒中23軒である。増築・改築を行い南にカンを設置している住居は25軒中21軒でそのうち1978年以前の住居が16軒である (fig.4)。

調査件数	対象件数	1978年以前
103	25	17
増築・改築件数	増築	1978年以前
25	8	7
増築・改築件数	改築	1978年以前
25	23	15
増築・改築件数	南カン住居	1978年以前
25	21	15

fig.4 増築・改築件数

活様式の変化に伴い、建設年の古い住居では増築・改築が行われている。これまでの調査より、増築・改築の住居は103軒中25軒確認でき、そのうち17軒は1978年以前の住居である。また、増築は25軒中8軒であり、1978年以前のもが7軒であり、改築された住居は、25軒中23軒である。増築・改築を行い南にカンを設置している住居は25軒中21軒でそのうち1978年以前の住居が16軒である (fig.4)。

4. 増築・改築によるしつらえ、住まい方の変化
増築・改築では主にカンの取り壊し、室の分割、カマドの移動が行われており、接客、食事、就寝、炊事空間に対するしつらえ・住まい方に変化が見られる。

4-1. 炕の取り壊しによる変化 (fig.5)
改築によって西2列、西1列、東2列のカンを取り壊す住居が見られる。【Lu0605】ではカンを取り壊した後、カン道と呼ばれる水平の煙道や煙突を設け、ベッドが置かれ、孫の寝室として使用している。さらに主要な生活場所であった東1列のカンを取り壊し、テーブルやイスを設置し、客厅としている。ベッドも設えられているが、日常ではイスの代わりとして、または客用の臨時用のベッドとして利用されている。カンの取り壊しによって、ベッドでの就寝、テーブルやイスでの接客、食事の生活行為が行われている。

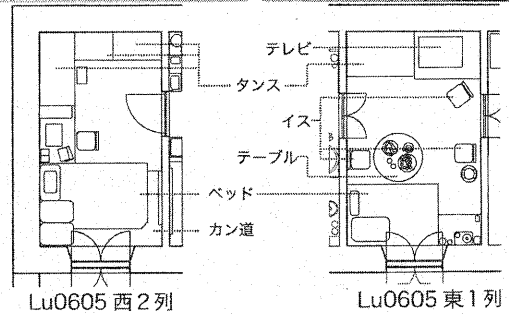
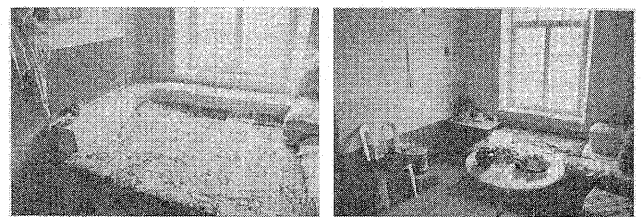


fig.5 炕の取り壊し

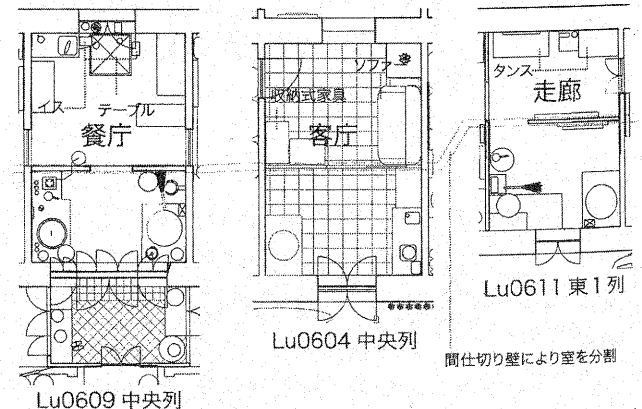
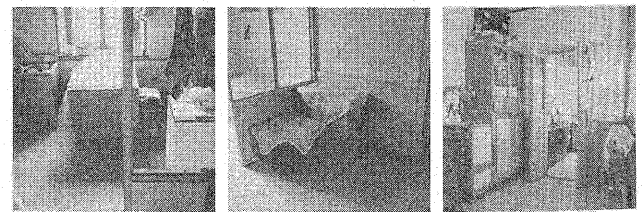


fig.6 分割による専用室の発生

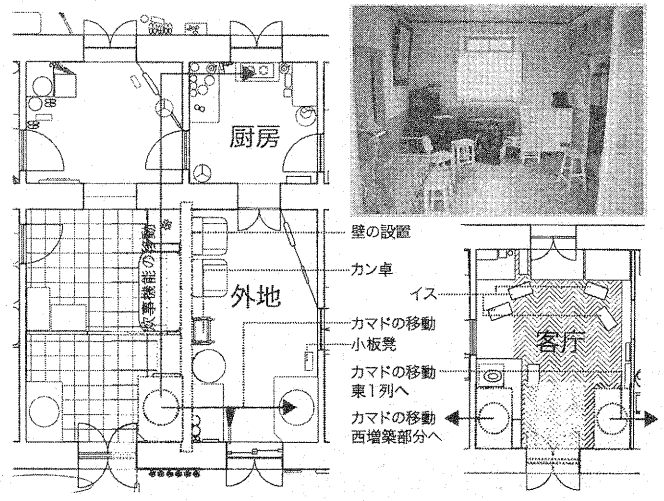
4-2. 分割による専用室の発生 (fig.6) 中央列が分割され、炊事機能から食事機能が分離し餐厅になる住居が見られる。【Lu0609】の餐厅では、テーブルとイスが置かれ、食事と家族の団らんが行われている。伝統的農村住居ではカンの上で行われていた接客が、【Lu0604】では中央列を分割して出来た室(客厅)で行われる。客厅では食事も行われ収納式家具が利用されている。【Lu0611】では分割した室を通過動線である走廊として利用し奥の室へ炊事機能を經由せずにアクセス出来るようにしている。分割により室が増加し、室機能を整理することが出来ており、カンで行われていた機能が移動してきている。

4-3. 炊事機能の移動 (fig.7) 2世帯が独立して生活するためにカマドを移動している住居が見られる。伝統的農村住居では入口となる中央列に炊事機能があり、東西にカンがある場合には入ってすぐの両脇にカマドが2つ設置されている。【Lu0604】では、中央列のカマドを取り壊し、東1列にカマドを移動しているが、一部の炊事機能は増築場所へ移動している。改築時に中央列と東1列の間に壁を設置し、親世帯と若世帯の生活領域を分離している。【Lu0611】では、カマドを両方とも移動することで、共用の客厅となり、接客、農作業の場所などとして利用されている。中央列から炊事機能を移動し世帯毎に炊事機能を所有でき、壁や共用空間によって世帯を分離している。

5. 増築・改築による住要求の変化 しつらえ、住まい方の変化により就寝形態の変化、接客・食事空間あるいは就寝空間のカンからの分離、接客動線の炊事空間からの分離が起こっている。

5-1. 就寝形態の変化 (fig.8) カンの取り壊しによりベッドが設置される住居の中で、特徴的な就寝形態をとる住居がある。【Lu0604】では西2列と西1列の間の壁をガラスにし、空間的に一体感を持たせ、その空間にベッドとカンの両方を置いて季節によって使い分けるといふ住まい方が見られる。また、【Lu0603】夏でもカンは使用されるためカンの上が暖かいため東2列のカンを取り壊しベッドを設置することにより、娘の就寝場所となっているが、夏には両親がベッドで就寝し、冬はカンの上で就寝するというように季節によって就寝場所を使い分けている。季節によってカンとベッドを使い分ける就寝形態が発生している。

5-2. 接客・食事空間のカンからの分離 (fig.9) カンの上で行われていた接客と食事は中央列の分割やカンの取り壊しによって、カンの上から分離している。【Lu0604】では、西1列を寝室として利用するこ



Lu0604 中央列 - 東1列

Lu0611 中央列
fig.7 炊事機能の移動

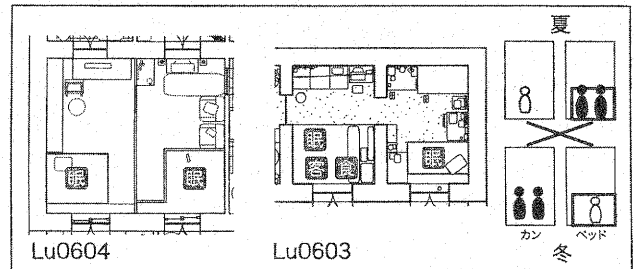


fig.8 就寝形態の変化

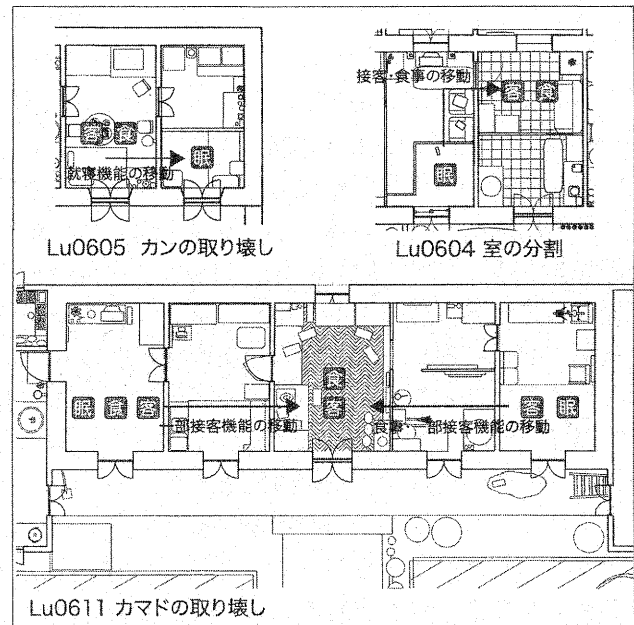


fig.9 接客・食事空間のカンからの分離

とにより、炊事空間を分割して出来た客厅で接客・食事を行っている。また、【Lu0605】では、カンは取り壊されたが、カンの上で行われていた接客・食事は、テーブルとイスで行われるようになってきている。しかし、就寝機能が、東1列から東2列に移動し、カンの上で行われており、接客・食事空間から分離している。【Lu0611】では、炊事機能の移動により両方のカマドが取り壊され、中央列は客厅として親世帯、若世

帯の共用空間とされている。客厅では主に接客を行っているが、年配の客、若夫婦の先輩に対しての接客は親夫婦のカン、若夫婦の同輩などに対しては若夫婦のカンで行われるなどの接客場所の使い分けも発生している。このようにカンの取り壊し、カマドの取り壊し、室の分割によって接客・食事の機能はカンの上から離れるが、就寝機能はカンの上に残る。また、客厅の発生により、カンの上でも接客を行うが、客による接客場所に使い分けが見られる。

5-3. 炊事空間と客動線との関係 (fig.10) 炊事空間は増築・改築されることで室空間の細分化、カマドの移動が起きる。伝統的農村住居では入口となる中央列を通過して炕のある東1列で主要な接客は行われる。つまり、炊事空間を通過し、接客空間にアクセスしている。しかし、増築・改築を行っている住居の中には炊事空間を客動線から分離する住居が見られる。【Lu0611】は、親子2世帯の家族が住んでおり、増築・改築の際に親世帯と若世帯の炊事空間を分離し、世帯毎に炊事機能を所有している。若世帯の炊事空間は、中央列にあったカマドを取り壊し、東1列に移動し、その際に室を分割し、走廊を設置している。走廊の設置によって奥にある接客空間である東2列へ厨房を通らずにアクセスできるようになっている。親世帯の場合、西側に炊事空間を増築し、西2列を主要な生活空間とすることで、伝統的農村住居の形式をとっている。しかし、来客は中央列から西1列の孫の部屋を経由し西2列に動線をとっているために炊事空間を通らずに接客空間にアクセスできる。【Lu0604】の住居では、中央列の東側のカマドを取り壊し、東1列に移動しているが、北側に増築された尾房に炊事機能を移している。東1列にあるカマドはおもに冬期に使用されるものであり、主な炊事は尾房で行われる。そのために、親世帯への客の動線は、炊事機能と交錯することがなくなる。しかし、炊事空間の増築・改築を行っている住居でも、炊事空間を分割しているが、客の動線は分離されておらず、接客空間までの動線と炊事機能が交錯している。これらは、カマドの取り壊しに伴い炊事機能を移動させることが、接客動線と炊事機能を分離させている要因であると考えられる。炊事機能の通過から炊事機能の回避へと客動線が変化している。

よって、増築・改築による変化は1) 接客空間の就寝空間と炊事空間からの分離、2) 生活空間の使い分けとして、季節による就寝場所の使い分け、客による接客場所の使い分け、3) 二世帯同居における生活空間の分離の住要求によって行われていることが明らか

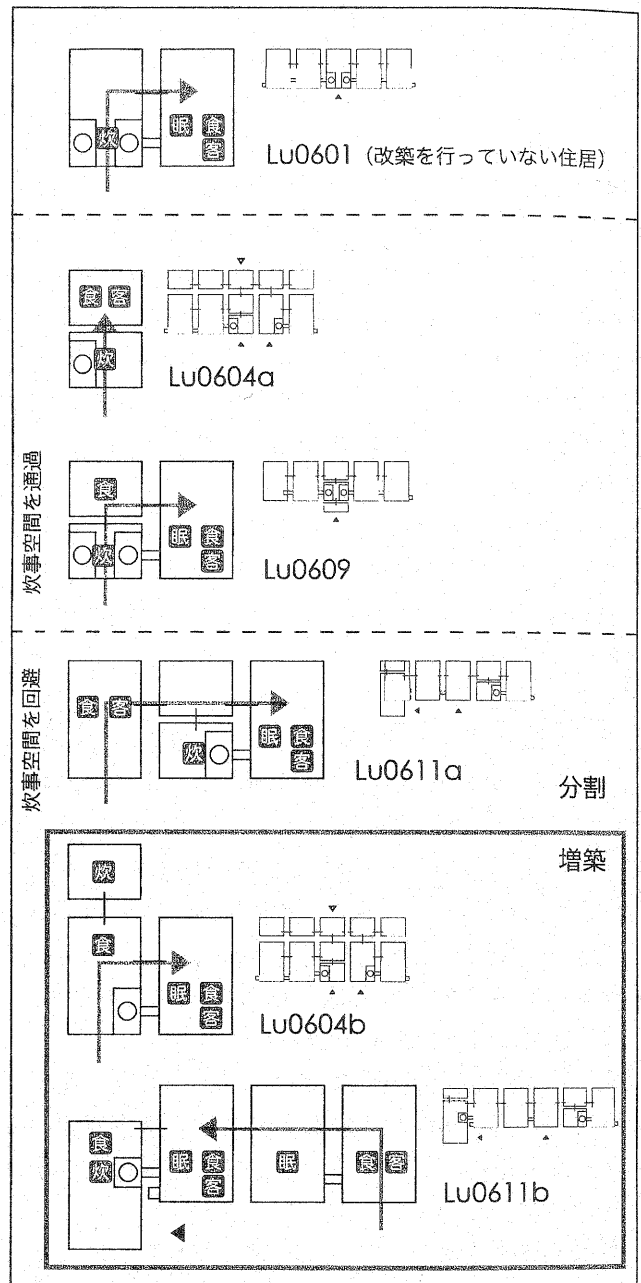


fig.10 接客動線と炊事空間との関係

になった。

8. まとめ 本研究では、中国東北地方の住居において増築・改築による空間構成の変化が、機能区分、機能分離、世帯区分により起こっていることを明らかにした。住民はそれぞれの住要求にあわせて増築・改築を行っており、新しい生活様式にあわせるのではなく、カンで行われていた生活を多様化させ、カンを残している。

現在中国は急速な経済発展とともに、住居形態や住まい方が変化してきているが、中国東北地方の農村住居のカンのような地域特有の住まい方を継承しつつ変化している仕組みを明らかにしていくことは今後の住居計画において重要である。